

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【92号】2017年9月

東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL: 03-3383-7800

平成29年度 東京都・調布市合同総合防災訓練に参加しました！

平成29年9月3日(日)午前8時ごろ、多摩地域を震源とする非常に強い地震が発生、多摩部の広い範囲で震度6弱以上、特に調布市周辺では、震度6強を記録したと仮定した今年の訓練は、この状況を想定し、各機関がそれぞれのシナリオで最良の動きができるように連携し確認していくものでした。その訓練のひとつとして、調布市社会福祉協議会を中心に、北多摩南部ブロックで実施した防災まち歩きにCO災害会員7名が参加してきました。



➤ 会場で大人気だった
「防サイくん」

展示・体験・応急復旧等訓練

■ 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センターは、要配慮者とその支援者の方々にも訓練参加を呼びかけ、災害時を想定して、一緒に、総合防災訓練会場(多摩川児童公園)に設置したボランティアセンター本部までのまち歩きを体験しました。

＜参加総数＞：105名

- ◆ 要配慮対象者とその支援者
障がいを持った方：31名
乳幼児期の子育て中の方：15名
外国の方：4名
ご高齢の方：2名
- ◆ 支援団体
多摩川地区協議会
コープ災害ボランティアネットワーク
東京災害ボランティアネットワーク
都域で活動するNPO,NGO,JC
都職員、市職員

■ オリエンテーションでは、多くの方と仲良くなるためのプログラム、災害時のイメージを共有するためのプログラムであり、みんなで楽しく体験・交流・共有していくことが目的であると説明がありました。

＜参加者感想＞

- 要配慮者の誘導および避難所での支援は平時においての関係性が大きく作用すると思えます。
- 外国の方とコミュニケーションが充分にとれないことで、いらいらしない為には、図や絵、ゼスチャーを駆使することになるのだろうと思った。
- 地域の知的障害の方々も働くカフェでの3.11の時の対応をお話いただいたのが、良かった。
- 黄色の布で、「無事です」の印は外からとても見やすく、共助の意識が高いと感じた。
- 大人だけでマイペースで暮らしているのが、高齢者の方や子どもたちと一緒にというのが、新鮮でしたが、発災時には誰もがペースがくずれてしまうことなど困難さを感じました。
- 多様に配慮することがあるため、経験者や対応できる支援者が駆けつけるまでの間、サポート側も訓練時から対処方法など想定しておくと思いしました。



➤ 教室がいっぱい！オリエンテーション



住民の方は、黄色い目印の旗を出すことで訓練に参加



➤ 坂も多く、車いすの方は移動がたいへんです。



➤ 災害時には、福祉避難所になる作業所を確認



➤ 備蓄庫がある児童館をファミリーターが紙芝居で説明。



➤ 段差のある歩道、狭い幅を植物がもっと狭くしていました。



➤ ゴールで振り返り

■ 今回の訓練で、要配慮者の方々と一緒に歩き、有事に助け合う事の難しさや課題を共有することができました。外国の方の通訳や聴覚に障害のある方には手話通訳の方がすぐに側に付く事ができるか？
そのために避難所のことなどを伝えるツールが必要なのではないか。
小さな子ども連れでの避難(ベビーカー)や車いすでの移動は困難。そのためには何が必要か？など課題がたくさんありました。
多くの話し合いの場を設け、整備していく必要があることを改めて考えさせられました。

緊急支援物資搬送訓練

東京都生協連では、緊急時に物資を搬送する協定を東京都と締結しています。生協の倉庫から、地域内輸送拠点や避難所への搬送・受け入れの訓練(仮想)に各地域生協が毎年順番で参加しています。



医療救護班活動訓練

都及び市の福祉保健部門・災害拠点病院・医師会・日赤等が連携し、病院や救急医療救護所において負傷者に対し初期医療措置等を実施。北多摩中央医療生協と東京都生協連から4名が参加しました。



◆東京都生協連は、対策本部ブースを設け、無線訓練等を行ないました。また、東京都生協連の支援活動等を紹介するパネル展示と防災クイズで啓発活動を行ないました。CO 災ボスキルアップ講座「日赤の防災セミナー」から、災害時に役に立つ技術を紹介し、約300名の方に見ていただき、防災クイズには280名の方が参加しました。いろいろな知識を得られたと好評でした。



➤無線訓練の実施

避難者と支援者による

2017 ふれあいフェスティバル

10月1日(日) 午前10時半～午後3時半

篠崎公園(芝生広場)

東京都江戸川区上篠崎1丁目25番1号

主催: 広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会

東日本大震災で故郷を離れ、東京や近郊で避難生活を送っている方々が交流するイベントです。ブース展示やステージ発表などみなさんも楽しめるイベントです。お近くにお住まいの会員のみなさんも避難者の方や避難者を支援している団体の方々と交流できる機会です。ぜひお立ち寄りください。

◆東日本大震災発災から6年半が経過しました。この大震災による津波や原発事故により、被災地に住む多くの方々が全国に避難する事になりました。地元より遠方に避難した方を「**広域避難者**」または「**県外避難者**」という事があります。全国で一番県外避難者が多いのが東京都で、**2017年7月現在、5,365人**の方が避難しています。福島第一原発事故による放射能汚染の影響で、避難者の多くは福島県民です。

◆避難者の課題はたくさんあります。一つの市町でまとまって避難することが出来なかったため、同じ市町の方がどこに避難しているのか把握できておらず、6年半経過した今も不安な避難生活を送っている方々がいたり、市民の放射能の間違った認識により、差別的な対応やいじめにあたりたりするなど、会員のみなさんもニュース等で報じられている事に心を痛めたこともあると思います。

◆福島第一原発の事故により、福島県内では、国の指示で強制的に避難している地域(区域内)とそうでない区域に分かれることになりました。この区域内/区域外は、年間の放射線量が20mSv(シーベルト)を超えるかどうか判断基準となっています。しかし区域外の人でも放射能による被害を心配して、遠方に避難する方々がいます。自主的な避難になるため、賠償金はほとんどなく経済的に困窮する世帯も目立ちます。

◆たくさんの市民やボランティアグループ、NPOなどが避難者の良き理解者となり避難生活を支えています。また、避難者自身も団体を立ち上げて活動しています。東京都生協連も支える団体のメンバーです。そして、CO災ボの会員も避難者と地域の方がどうサロ「**来らっせしらさぎ**」などの運営のお手伝いをしたり、このフェスティバルの応援に駆け付けたりしています。

ふれあいフェスティバルは避難者と支援者と、みんなで企画しています!!

<篠崎公園アクセス>

○JR 総武線「小岩」から京成バス72系統「浅間神社」下車徒歩4分

○都営地下鉄新宿線「篠崎」(S20)から徒歩16分又は京成バス72系統「浅間神社」下車徒歩4分

